

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日

令和 7年 1月 15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200939		
法人名	社会福祉法人 渉久会		
事業所名	グループホーム桃の庵		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県紀の川市桃山町最上843-1		
自己評価作成日	令和7年(2025年)1月6日	評価結果市町村受理日	令和7年2月25日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	泉佐野市泉が丘4-4-33
訪問調査日	令和7年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、ご本人が自分らしく穏やかな生活を送る事が出来るように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな自然に囲まれた事業所は、木造平屋の建物で天井が高く、リビングの大きな窓からは桃の木が眺められ、花が咲いたり桃がなったり季節の移ろいを感じることができます。リビングには畳の間やソファーがあり、くつろげる空間になっています。事業所の理念である「明るく楽しくホッとできる暮らし～地域の中で支え合い～」をモットーに、地域との関係も良好で野菜や果物の差し入れがあったり、また災害対策として地域の消防団との防災訓練実施や紀の川市主催の地域住民や企業も参加する防災訓練にも参加し連携を図っています。事業所内においても利用者一人一人の声に耳を傾け、利用者個々の特性や希望を把握しながら、利用者が出来ることを最大限引き出せるよう職員が利用者に寄り添いながら、その人らしく生活が送れるように支援されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「明るく楽しくホッとできる暮らし地域の中で支え合い」を毎月の職員会議において共有を図り、実践に努めている。	事務所内に理念が大きく掲示され、毎月の職員会議や入職時のオリエンテーション時に理念についての話がされ、理念の共有実践につなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の敬老会に参加したり、近隣に外気浴に出かけたりし、地域との繋がりを大切にしている。	近隣の方から畑で採れた野菜や果物の差し入れがあったり、敬老会など地域行事への参加、また事業所と消防団との防災訓練実施など地域の一員として積極的な交流が図れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や近隣の方に気軽に立ち寄ってもらえるように日頃から雰囲気や大事にし、相談などに乗りやすいように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況・取り組み・事故報告をして意見交換しサービス向上に活かしている。	市職員、包括職員、民生委員、家族等多数の参加があり、近況報告及び意見交換が行われています。そこで出た、家族からの要望が事業に反映された事案もあります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類や運営基準などの相談や報告を運営推進会議時やその他にも連絡を取り連携に努めている。	運営推進会議への参加もあり、普段から連携が取れています。紀の川市において事業所との連絡や相談をラインワークス（SNS）を通して行い、迅速なやり取りが行えるような体制になっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルに基づいて研修を行い全員で理解するよう取り組んでいる。玄関の施錠については安全な状態での開錠時間を試みている。	利用者の安全確保の為、玄関等施錠はしていますが、時間帯により解錠時間を設けたり、利用者の行動に合わせて散歩に出かけるなどで対応しています。身体拘束に関する委員会の開催、研修や会議をとおり、職員全員が認識を持ったうえでケアに取り組んでいます。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルに基づいて研修を行い全員で取り組みを深め、防止に努めている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護制度について理解し、利用者の家族からの相談に応じて行けるよう取り組んでいる。成年後見制度を活用されている方がおり学ぶ機会を持っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約の際に、説明して納得頂けている。改定事項等があればその都度説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話連絡などで個々に要望を確認し対応している。</p>	<p>利用者の声には常に耳を傾け、利用者家族に対しても面会時に積極的に声をかけ、何でも話せる関係づくりがなされています。面会がない家族にも月に1回は必ず連絡を取り、そこで出された意見や要望は職員会議等で検討し、ケアの実践に反映しています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議やミーティングで意見交換の場を設け、必要に応じて法人代表者へも伝えるようにしている。</p>	<p>毎月開催される職員会議や年2回の職員との個別面談で管理者は職員の意見に耳を傾けるよう努めています。事業所における業務や行事について職員主体で意見を出し合いそれが反映されています。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の事情なども考慮した上で法人代表者に相談しながら就業環境整備に努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内研修や外部研修への参加で資格取得、個々のスキルアップを図れるようにしている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人系列の施設職員間などで意見交換をしている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活ベースを知った上で信頼関係を築き、不安感の解消に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り希望要望に添えるように心掛け、話しやすいような関係作りと声掛けに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の現在一番困っている事などを確認して対応するように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人・家族の方との信頼関係を築けるようにし、ご家族と連携しながら共に支え合えるように努めている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の意見要望をその都度確認し信頼関係を深めるように努めている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご近所であった方などにも気軽立ち寄ってもらい面会して頂いている。また馴染みの場所にドライブに出かけたりしている（神社・寺など）	家族や友人の来園を通して、普段から馴染みの方との関わりがあります。また家族の協力を得ながら美容院やお墓参り、事業所としても初詣やドライブを企画し馴染みの場との関係継続の支援にも努めています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブル回避に努め、必要に応じて職員が間に入り交流出来るように努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などに移動された場合や入院された場合でも必要に応じて経過確認や相談に乗ったり出来るように努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>これまでの生活歴や家族構成などしっかり把握するように努めている。</p>	<p>入居時に家族から聞き取った生活歴や趣味等の情報を得て、今までの暮らしに沿った生活が送れるよう努めています。また、日々の支援の中で表情やしぐさなどから推測し思いを汲み取っています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人やご家族より情報収集に努め、職員で共有に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>出来る事・出来ない事を見極めるようにし、現状の維持向上に努めるようにしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人及び家族の希望を確認し、職員全員で話し合い状況に応じての介護計画を作成している。</p>	<p>定期的にモニタリングを実施し、本人及び家族に思いを聞き、それをもとに職員間で意見交換を行い介護計画に反映させています。介護計画は6ヶ月に1度の見直しと、随時状態の変化にあわせて見直しを行っています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の介護経過記録を確認しながらケース会議、ミーティングなどで情報共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族や知人などに協力してもらい、外食や外泊など柔軟な支援やサービスを提供し、楽しく過ごせるように努めている</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>家族や知人などに協力してもらい、支援している。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診対応、法人委託医による定期往診の診察で、異変時の対応等適切な医療を受けられるように配慮している。</p>	<p>殆どは法人委託医を利用していますが、ペースメーカーの方や、精神科など本人に必要な医療が受診できるようご家族と協力しながら支援しています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>医療連携体制を整備して看護師（兼務）による利用者の状態確認の上、適切な処置・対応が出来るように取り組んでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院が円滑に出来るようにサマリーやフェイスシートで病院担当者と情報交換している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化する前から本人や家族に終末期のあり方を確認し、法人医師や事業所、家族と話し合い、併設する法人とも連携を図り支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に機械浴やミキサー食の対応ができないことの説明を行い、その後重度化に応じてご家族やご本人に併設の特養や医療機関などの選択肢を提示し、希望があれば看取りの対応もしています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルに基づいて研修し、適当な対応が出来るように看護師にも相談して実践力を身に付けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設する施設と共同避難訓練を実施している。災害対策マニュアルも整備し、定期的に見直し備蓄品管理を徹底している。近隣地域の消防団への協力体制を依頼している。</p>	<p>法人全体で共同防災訓練を実施しています。また紀の川市主催の防災避難訓練にも参加するなど、地域との協力体制も築いています。グループホーム独自で訓練実施や3日分の備蓄もし、災害対策を行っています。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護に配慮し対応している。特に入浴・排泄ケア時には個々に応じた対応を心掛けている。</p>	<p>排泄や入浴介助時等、同性介助やプライバシーに配慮した対応を行っています。時間帯により不穏になる方についてはスタッフ間で情報共有をし、人格を尊重した対応、声掛けができるように努めています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の真の思いをしっかりと受け止め、理解尊重するようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の生活ペースを把握し、利用者のペースを乱す事の無いように配慮し柔軟にな対応を心掛けて支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節やその日の天候、本人の好みに応じて服装を本人と決める事が出来るように支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養バランスを考えながらグループホームならではの献立を利用者と考えたり、準備や片づけを生活の一部として行っている。</p>	<p>買い物、献立作成、食事作りを利用者の希望を聞きながら行っています。豆むきや後片付けなどできることを一緒にに行い、ホットプレートでのおやつ作りや季節感を取り入れたり食事など、食事を楽しむ企画も実施しています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々に応じた食事量・食事形態・水分摂取量を確認し必要量を工夫しながら摂取できるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々に応じた口腔ケアをしている。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、パターンに応じてプライバシーに配慮した誘導・介助を行っている。	排泄記録を付け、一人ひとりの排泄の特徴を把握し、適切に排泄支援を行っています。各居室にトイレがあるので、職員は外で待つなどの配慮をし、必要な介助ができるよう備えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給強化や乳酸菌飲料など取り入れ、体操後に飲んで頂いたり工夫し水分補給と便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて、午前中の中入浴もできるようにしている。女性職員の介助を希望される方にも柔軟に個々に応じた支援をしている。	週に2回の入浴を予定し、利用者の気分や体調に応じて入浴日を変更し対応しています。鼻歌を歌ったり、昔の話をしたり利用者が、ゆったりと楽しんで入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせて適宜臥床休憩したり、夜間もゆっくりと眠れるように環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬一覧表を作成し、副作用なども理解し、職員全員が把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じたゆっくり過ごせる時間を考え作るようにしている。玄関ロビーのソファ等自由に気分転換出来るように柔軟に対応している。		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>本人及び家族の希望に添えるように外出支援している。行事で買い物に出かけたりコロナ流行前の支援に戻っている。</p>	<p>ご家族と外食など外出を楽しむことができています。また紅葉を見にドライブしたり、スーパーに買い物に出かけたり外出を楽しんでいます。気候の良いときは、日常的に敷地内を散歩しています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望があれば、本人が所持する事も出来るように柔軟な対応をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも手紙や電話のやり取りができるように対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れた飾り付けをしたり、ゆったりとくつろげる空間づくりをしている。</p>	<p>大きな窓からは、桃の木が眺められ、花が咲いたり桃がなったりする季節の移ろいを感じることができます。また大きなテレビがあり、カラオケや音楽を楽しんでいます。空調設備や空気清浄機が配置され清潔で快適な共用空間には季節の飾り付けをし、心地よく過ごせる工夫をしています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関口付近にテーブルやソファを置いて、気の合う利用者同士が交流したりくつろいだり出来るように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使い慣れた物や好みの物、思い出の品々や写真などを持ち込んでもらい、本人が居心地の良い居室になるように配慮している。</p>	<p>仏壇や冷蔵庫の持ち込みもでき、その人に合った居室空間でゆったりと過ごせるように、ご家族とともに工夫しています。居室には備え付けの押入により収納スペースが確保され、居室内はとても広くゆったりしています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内は全館バリアフリーで廊下やトイレに手すりもあり個々が残された力を安全に活かせる環境づくりとなっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない